

建築設備耐震設計チェックリスト

建築基準法施行令第129条の2の3、建設省告示第1388号及び第1389号の耐震規定に基づき設計チェックしたところ、下記表のとおり支障箇所はありません。

1. 耐震設計 設置する設備機器に○印（その他記入）【機器重量100kg以上のもの】

高架水槽、中間水槽、受水槽、膨張タンク、貯湯槽、ボイラ、冷凍機、空調機、ファン類、ポンプ類、自家発電装置、燃料タンク、キュービクル、蓄電池、配電盤、変圧器、厨房機器、電算機、（ ）、（ ）、（ ）

設置位置	機器名称	震度 Kh	有効重量	φ W・L・H (cm)	架台 (m)	取付ボルト			アンカーボルト	基礎		計算方法 (注1)	躯体 (注2)	チェック結果
						種類	片側本数	総本数		種類	タイプ			
最上階・屋上・塔屋														
2階床以上														
地階・1階														

(例)

屋上	高架水槽	1.0	4000kg	球形 φ200cm	2m	M10	2本	8本	埋込J型 M16 8本	はり形	E	b	○	良
----	------	-----	--------	-----------	----	-----	----	----	-------------	-----	---	---	---	---

2. 耐震措置

(1) エキスパンションジョイント部

位置	配管等	δ = 2・R・h	変位吸取措置		チェック結果
			X方向	Y方向	

(例)

屋上	給水管	2 × (1/200) × 20 = 20cm	○	○	良
----	-----	-------------------------	---	---	---

(2) その他、建築物導入部、機器と配管の接続部、横引配管等

配管等	建築物導入部		接続部		配管支持 (注3)			チェック結果
	X方向	Y方向	X方向	Y方向	A種	B種	その他	

(例)

給水管φ75φ	○	○	○	○	屋上、7F	1F~6F		良
---------	---	---	---	---	-------	-------	--	---

設計者	資格	登録第	号	氏名	
構造・階数	造	地上	階	地下	階
建築場所	高さ	m	用途		
申請者氏名					

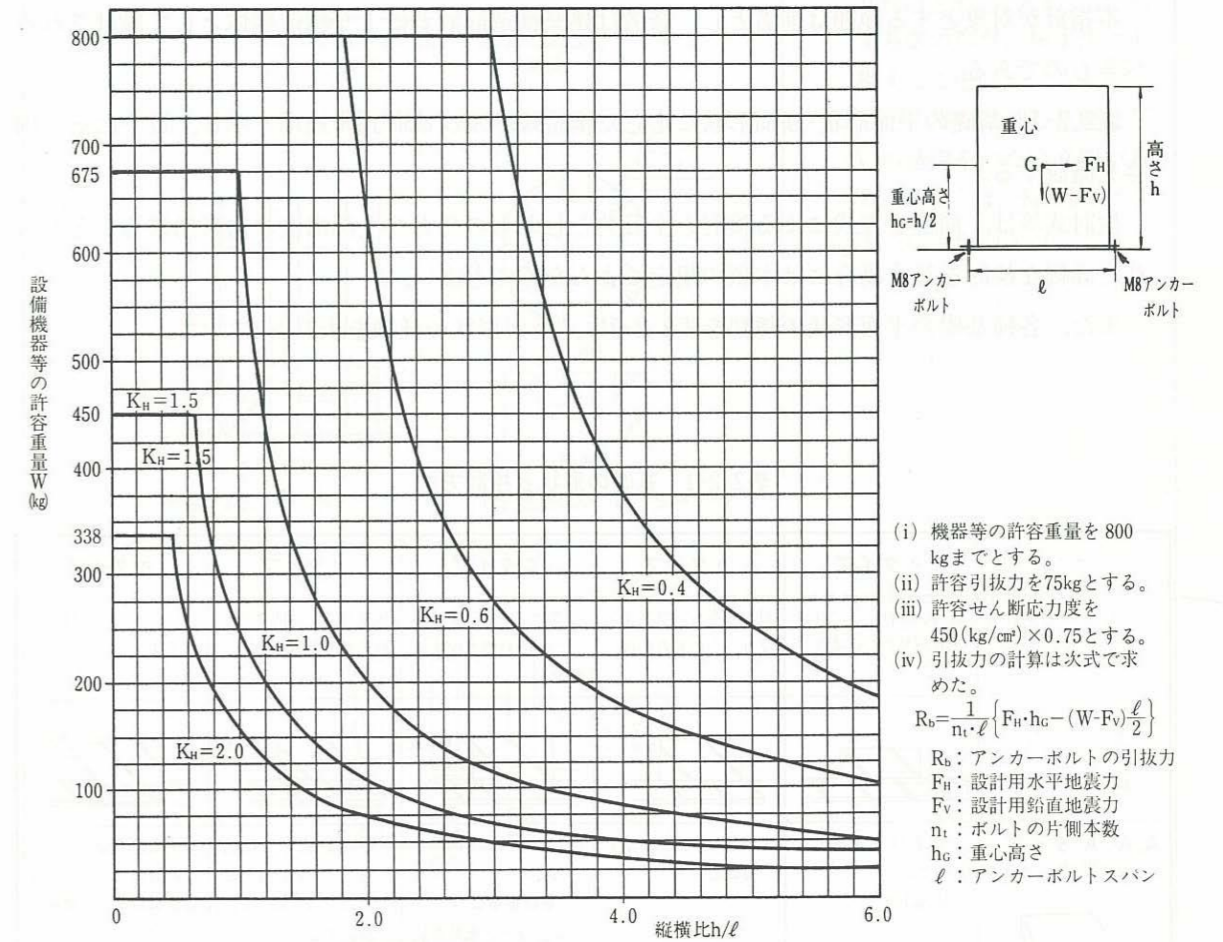


図2.1-8 設計用水平震度と設備機器等の縦横比による許容重量

(注1) a, b のどちらか記入。
a: M8以上のアンカーボルト4本以上で床上に据え付けられ上表を利用する場合
b: 計算式を用いてアンカーボルトの強度を検討した場合。

(注2) 当該機器重量が躯体構造計算の条件に入っている場合は、○印を記入する。

(注3) 階数を記入する。

※ この用紙はA3に拡大して使用してください。

※ 参考図書「建築設備耐震設計・施工指針」日本建築センター